



2016・7・1

第243号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 戦争法廃止、改憲阻止の声、さらに草の根に

### 2000万署名 1350万を突破

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は2000署名の6月25日までの到達点を次のように明らかにしています。

× × × × ×

「戦争法の廃止を求める2000万人統一署名」は、4月25日に集約した分をいよいよ5月19日に国会に請願として提出しました。通常国会提出の戦争法廃止の請願署名は1291万人余です。現在、集約中ですが、すでに1350万筆は超えています。署名運動は6月30日まで続きます。

### 署名協力者にお礼のチラシ

【埼玉県所沢市／吾妻九条の会】 所沢市の松ヶ丘地域、久米地域の住民でつくる吾妻九条の会は、この地域内で2000万人署名に協力してくれた人を対象に、「2000万人署名に協力していただいたみなさまへ」と題するお礼のチラシを配布しました。

チラシには2000署名の協力者が地域内で569人に達し、全国では1300万を超えていることを報告するとともに、こうした運動が参院選における野党共闘をもたらす力となっていることを強調しています。そし

### 改憲を争点から隠す危うさに警鐘

「岩手日報」6月24付は「憲法改正—語らない危うさ」と題する論説を掲載しました。

論説は「選挙で議論もせずに、改憲勢力が国会発議に必要な3分の2を超えたら改正に着手するという『白紙委任』では、国民は納得しない」と強調します。

大震災津波の被災地として、改憲の理由にあげられている「緊急事態条項新設の問題を見過ごせない」ことにも言及、「乱用の危険性を懸念する声も強い」同条項を持ち出すのは、災害対策を「突破口としようとする意図を感じざるを得ない」と批判。「議論が深まらないまま、この国が変わってしまうのでは危うい」と批判しています。（「岩手日報」6月24日）

て最後に、こうした運動をさらに発展させるため九条の会に参加することをよびかけています。

### 地域住民への訴えを全力で

【神奈川県青葉区／青葉台地域九条の会】

九条の会の活動は、7月参議院選挙に向けて、急速にその頻度を上げてきました。署名活動は5月19日、6月3日、6月9日の3回。朝のスタンディングは5月25日、6月2日、6月10日、そして14日以降は毎日やっています。今日までに7回。なお今後も週末を除く毎日の予定。この間に、6月5日は、国会前4万人集会に9人がそろって参加、別の団体で参加した方もおられたようです。

前号で「茶髪の若者」のスタへの飛び入り参加をお知らせしました。この若者のうち中心になっていた廣野君が12日の駅宣中、若い女性2名とともに通りかかり、わざわざ声をかけてくれました。

7月1日役員会、また、7月10日までの平日朝のスタは連日続けたいと思っています。そしてこの間に1、2回、出来れば日体大、桐蔭大の学生宛の宣伝をできればと期待しています。彼らは朝の8時過ぎに、一斉にバスに乗るため、数百人が並んでおり、相当の効率が望めます。（「青葉台九条の会ニュース」No106）

## 2000万署名を徹底して追求

**【青森県／青森県九条の会】** 総がかり行動実行委員会の全国一斉行動の呼びかけに応え、青森県九条の会は6月21日昼、青森市の駅前公園で街頭宣伝し「戦争法廃止2000万署名を広げ、市民の力で政治をかえよう」と訴えました。

リレートークで柳谷政志さんは「参院選で市民と野党が力を合わせ野党統一候補勝利、安倍自公政権に審判を」と訴えました。

署名した人から、戦争法を廃止させるた

め、参院選での野党共闘を応援したいとの声が寄せられました。

今別町在住の男性（65）は「安倍さんがどんなに言いわけしても集団的自衛権行使は憲法違反。国民の多くが反対していることを選挙で示すことが大事」と話しました。

必ず選挙に行き野党統一候補を勝利させたいと話した女性（72）は「9条守る。国民の声を聞かない人は首相の座からおりてほしい」と力を込めました。

**【札幌市南区／南区9条の会】** 南区9条の会、「戦争法を廃止する南区民の会」は19日、地下鉄澄川駅前、2000万署名を行いました。

リレートークで「参院選の最大争点は、戦争法を廃止して立憲主義を取り戻すか、安倍政権による改憲を許して戦争の道を歩むのかです」と訴えました。

18歳から20歳の数人が「9条壊すな」「俺たちは戦死するために生まれたんじゃない」と話し、署名をしました。30分間で40人が署名しました。

## 19日の行動各地に広がる

**【広島県／ストップ戦争法ヒロシマ実行委員会】** 戦争法廃止を求める「いちきゅう行動」として6月19日、ストップ戦争法ヒロシマ実行委員会は広島市中区の2カ所で宣伝しました。

本通り商店街入り口での宣伝には、36人が参加して「市民が変える、政治を変える、選挙で変える」の横断幕を掲げ、戦争法廃止の2000万署名を集めました。

難波健治事務局長はハンドマイクで「安倍首相の改憲を許すのか、戦争法を廃止し

憲法を守り抜くのが、今回の参院選の大争点です」と訴えました。

長女を連れた女性（40）＝安佐南区＝は署名に応じ、「知らないうちに戦争の方向へ、いろんなことが決められて、今の世の中が平和なのか疑問です。子どもたちの未来は平和であってほしい」と語りました。

**【大分県／平和をめざすオールおおい た】** 「平和をめざすオールおおい た」など市民団体は19日、繁華街で宣伝しました。沖縄の米軍属による女性暴行殺害事件に抗議して「米海兵隊撤退、辺野古新基地建設阻止」の横断幕を掲げてアピールしました。

参加者は、「二度と犠牲者を出さないためには基地撤去しかない」「スコップを持ち災害支援で頑張る自衛隊員に銃を持たせてはならない」などと訴えました。

自転車を降りた男性（91）は「70年間守られてきた平和と憲法は絶対に手放してはいけない」と激励し、署名しました。

### 定例の駅頭宣伝行動をつづけて

**【川崎市多摩区／生田9条の会】** 6月9日、生田9条の会の定例駅頭宣伝を行いました。7人の参加がありました。ビラを配る人、ハンドマイクを握る人、2000万署名を募る人。いつも参加の方、久しぶりの方、思い思いにアピール。「日が長くなったね」雨が降らないかぎり欠かさず行う定例の行動は、季節の歩みを感じるひとときでもあります。

なお、今後の定例宣伝は6月19日(日)生田駅南口、29日(水)読売ランド前駅南口、7月9日(土)生田駅南口を予定しています。

（「生田9条の会ニュース」第59号）

## 9条に思いよせる財界人の会

「戦争を起こすのも人間、戦争を止めるのも人間」—そんな言葉がつづられている垂れ幕が、札幌市東区の会社の壁面に掲げられ、道行く人の目を引き付けている。設置したのは、市内の企業のトップ3人が世話人を務める「グリーン九条の会」。

長さ8mの垂れ幕があるのは、旅行会社「りんゆう観光」本社ビル。社長の植田英隆さん（71）は「目にした人が平和を考えるきっかけにしてくれれば」と、4月下旬に掲げ始めた幕を見上げる。

2008年10月、「経済人からも声を上げたい」とグリーン九条の会をつくった。以前から知り合いだった「秋山不動産」（札幌）会長の秋山孝二さん（65）と、「旅システム」（同）社長の内山博さん（71）も賛同して発足に加わった。

主な活動は講演会。これまで10回開き、ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英さんには「科学と平和」を、沖縄県宜野湾市の伊波洋一元市長には「米軍基地問題」を語ってもらった。3人は毎月1度は会って、講演会の人選や平和をめぐる時事情勢について意見交換する。

垂れ幕の言葉は、13年に89歳で亡くなった元経済同友会終身幹事の品川正治さんが、よく口にしていた言葉だ。

秋山さんは「経済人が時の政権におもねる風潮が強まってきたと感じている」。内山さんは「責任ある立場の現役の会長や社長が発言することに意味がある」と話す。

（「北海道新聞」6月2日夕刊より）